

金曜日の会 報告

1 期 日 12月4日 19:00~21:00

2 場 所 倉敷労働会館

2 参加者 O、AS、AK、YO

3 内 容

『大造じいさんとガン』 記録・解釈

『側転』映像 AK

『ごんぎつね』映像 AS

『ひばりのす』解釈 YO

○大造じいさんとガンの『感嘆の声をもらす』場面の記録で、子どもたちから『無意識にもらしてしまうほど、どんな感心することがあったのか?』という内容の問題が立て続けに出てきました。とてもいい流れでした。ここで、教師が何をするかが重要です。問題の温度を上げるための点火作業ができるかどうか、子どもたちの追求に火がつくか否かに大きく関わってきます。また、感嘆の対象については、残雪だけと仲間のガンだけという対立には、多少無理があります。残雪だけか残雪と仲間かで対立を組み、『ガンとかカモとかいう鳥は、』を使って、発見に導く方がよいでしょう。

解釈を文章で表すと、その弱い部分が如実に表れます。そして、これが深まるか否かに繋がります。

側転の指導の過程で壁倒立をする時、背筋がまっすぐになっていることが大切です。また、片足を振って壁に向かうことを意識させなくてはなりません。

○AS学級の映像からは、子どもたちがやる気を持って、開放的に問題解決に取り組んでいる様子が伝わってきました。先生自身は、以前から語り口調がよかったです。今は子どもと一緒に追求しようとする姿が見られます。これから、私たちみんなの課題である『みんなを巻き込むこと』『子どもものを生かすこと』を一緒に考えていきましょう。解釈場面では、どこが想像でどこが事実かをはっきりさせる必要があります。

○ひばりのすの解釈では、教師が子どもの予想される反応を持っているかが問題になりました。それがなければ、子どもとのズレを予測して対立を予定することもできません。結局、だらだらと授業が流れていきます。2連まで『言いたい、言いたい。』と思っていたぼく(仮)が、『まだたれにもいわない』と変化した原因は『小さいたまごが』『五つならんでる』にあります。ここに教師がどれだけの解釈を持っているかが大切です。『たまごが』の『が』には、何かたまごに意志があるように思われます。また、『ならんでる』の『でる』からは大きな感動が見られ、さらに『あった』『並べられている』『並んでいる』と比べてどう違う

のかを考えていかなければなりません。また、たまごは産み立てか否か、一連の『たれ』と3連の『たれ』は同じか否か、教師が細部に渡って問題を作れるかも重要です。Y O